

ヨシュア記1章

1:1 さて、【主】のしもべモーセが死んで後、【主】はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。1:2 「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。1:3 あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおりに、あなたがたに与えている。1:4 あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。1:5 あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。1:6 強くあれ。雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。1:7 ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法を守り行え。これを離れて右にも左にもそれではならない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。1:8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである。1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」1:10 そこで、ヨシュアは民のつかさたちに命じて言った。1:11 「宿営の中を巡って、民に命じて、『糧食の準備をしなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダン川を渡って、あなたがたの神、【主】があなたがたに与えて所有させようとしておられる地を占領するために、進んで行こうとしているのだから』と言いなさい。」1:12 ヨシュアは、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族に、こう言った。1:13 「【主】のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、【主】は、あなたがたに安住の地を与え、あなたがたにこの地を与える』と言ったことばを思い出しなさい。1:14 あなたがたの妻子と家畜とは、モーセがあなたがたに与えたヨルダン川のこちら側の地に、とどまらなければならない。しかし、あなたがたのうちの勇士は、みな編隊を組んで、あなたがたの同族よりも先に渡って、彼らを助けなければならない。1:15 【主】が、あなたがたと同様、あなたがたの同族にも安住の地を与え、彼らもまた、あなたがたの神、【主】が与えようとしておられる地を所有するようになったなら、あなたがたは、【主】のしもべモーセがあなたがたに与えたヨルダン川のこちら側、日の上の方にある、あなたがたの所有地に帰って、それを所有することができる。」1:16 彼らはヨシュアに答えて言った。「あなたが私たちに命じたことは、何でも行います。また、あなたが遣わす所、どこへでもまいります。1:17 私たちは、モーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。ただ、あなたの神、【主】が、モーセとともにおられたように、あなたとともにおられますように。1:18 あなたの命令に逆らい、あなたが私たちに命じるどんなことばにも聞き従わない者があれば、その者は殺されなければなりません。ただ強く、雄々しくあってください。」

導入

今週から、12月に入ってクリスマスのシリーズを始めるまでの間、ヨシュア記をともに学びます。クリスマスが終わって、イースターのシリーズが始まるまでに、ヨシュア記のシリーズを終える予定です。

なぜこの書を学ぶ必要があるのでしょうか。

1. この書は、神が創世記12：7でアブラハムに与えられた約束の成就です。ヨシュア記は、イスラエルの建国時期の記録です。この書は、神がご自身の約束を誠実に守ってくださることを強調します。
2. この書は、「神の聖さ」を教えてください。多くのことが記されていますが、その中に、神の聖さに抵抗する人たちへの神の裁きが含まれています。神が人々に裁きを下される前、

この地でどのようなことが起こっていたか、20世紀初頭に発掘されたウガリットの粘土板から多くを知ることができました。そこにはバアル崇拜の一環として、幼児をいけにえとしてささげる行為や、娼婦や男娼の存在がありました。その他、聖なる神に対する罪となる多くの事柄がありました。

20:16 しかし、あなたの神、【主】が相続地として与えようとしておられる次の国々の民の町では、息のある者をひとりも生かしておいてはならない。20:17 すなわち、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人は、あなたの神、【主】が命じられたとおり、必ず聖絶しなければならない。20:18 それは、彼らが、その神々に行っていたすべての忌みきらうべきことをするようにあなたがたに教え、あなたがたが、あなたがたの神、【主】に対して罪を犯すことのないためである。

ヨシュア記の内容を受け入れがたいと感じるクリスチャンもいます。その理由はさまざまですが、おもな理由として挙げられるのが、神の聖さについて無知であることです。すべての罪は神というお方に背くことです。

神は、罪の邪悪さをご覧になります。神は罪を裁かずにはおられません。罪があるその地の人々は、滅ぼされるほかなかったのです。神の御子イエスは、私たちの罪の罰を負って十字架上で死なれました。罪はそれほど深刻なものです。

3. ヨシュア記は、現代のクリスチャンの生き方について多くを教えてください。ヨシュアの時代と現代の私たちがクリスチャン生活の中で直面する障壁や課題には、共通点がいくつもあります。

ヨシュアはその地に住む「巨人」に立ち向かいました。私たちも違った形で「巨人」と立ち向かいます。

ヨシュアは、目に見えるところではなく、「信仰」によって物事をなすよう召されました。そして、神のみことばに従いました。

私たちも、神のみことばを信じて物事をなすよう召されています。民は「勝利」を得る前に葛藤を経験しました。私たちも同じです。しかし、「信仰」によって神のみことばを信じ、神の約束を得ようと前進する信徒は、必ず勝利を得ます。ヨシュア記は、新約聖書のエペソ人への手紙に似ています。パウロがエペソ人への手紙で解き明かす教理は、ヨシュア記では実体験として解き明かされています。それは、イエス・キリストにある富を自分のものにするということです。

4. すべてのみことばは、神の靈感によって書かれています。

テモテ第二3：16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

この書は、私たちに神のことを教えるために、神によって記されました。ヨシュア記の学びの目標は、私たちが神を今までより深く知ることです。

この書を学ぶ中で、神が教えてくださることをしっかり受け取るなら、クリスチャン人生における成長に役立つでしょう。この書が、クリスチャンとしての歩みを進める助けになると私は信じています。クリスチャンは常に、霊のいのちにおいて成長しているべきです。この書が、皆さんのクリスチャン生活の「新たなスタート」のきっかけとなるかもしれません。

1章の学びを始める前に、ヨシュアについて少し調べておくとよいでしょう。

ヨシュアは、エジプトで奴隷として生まれました。（民数記32：11-12）ヨシュアは、当時もっとも勢力を伸ばしていたエフライム族でした。

エジプトを出た時点で20歳以上の成人だった者の中で、ヨシュアとカレブのふたりだけが約束の地カナンに入れました。（民数記1：10、歴代誌第一7：26-27）他の斥候たちが現地の人々を恐れる中、このふたりだけは、神がこの地を与えてくださると信じる「信仰」を持ちました。

ヨシュアは、モーゼの助手でした。これは、非常に名誉ある職でした。ヨシュアは、体力だけを頼りにせず、「信仰」を基に戦う戦士でした。

出エジプト17：8-16

17:8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。17:9 モーゼはヨシュアに言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手に持って、丘の頂に立ちます。」17:10 ヨシュアはモーゼが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーゼとアロンとフルは丘の頂に登った。17:11 モーゼが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。17:12 しかし、モーゼの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーゼの足もとに置いたので、モーゼはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとりはこちら側、ひとりはあちら側から、モーゼの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。17:13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った。17:14 【主】はモーゼに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」17:15 モーゼは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、17:16 「それは『主の御座の上の手』のことで、【主】は代々にわたってアマレクと戦われる」と言った。

ヨシュアは、指導者モーゼに忠実でした。イスラエルの民が、食物不足をなげき、指導者であるモーゼについて不平を言った際、ヨシュアはモーゼを支持しました。（民数記11：28）

ヨシュアは、神に与えられた務めをするために、十分備えられていました。

モーゼは、エジプトの奴隷生活から民を解放するよう神に召されました。ヨシュアは、民を約束の地へと導き入れるように神に召されました。

これらのことを念頭に、1章の学びを始めましょう。

1. ヨシュアに対する神の約束（1-4節）

神は、ご自身の選びの民であるアブラハムの子孫のために備えられた土地をヨシュアに与えると約束なさいました。この地は、6節、11節、15節に登場します。神がヨシュアに与えられた約束の根底には、創世記12章があることを知っておきましょう。では、創世記12：1-3を読みましょう。

創世記12：1-3 12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

創世記15：8を読めば、その土地がどこにあるかがわかります。

創世記15：8その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。

今日のイスラエルは、神が約束してくださった土地のほんの一部のみを占めます。また、これまでの歴史で、イスラエルが約束の地すべてを所有したことは一度もありません。

神のアブラハムへの約束、そしてここにあるヨシュアへの約束は、現代のイスラエルの領土に関しても有効であると信じます。神は今も、約束の地にいる神の民に目的を持っておられます。またこの地は、イエスがいつか再臨されると約束された場所でもあります。もしイスラエルに行く機会があれば、その機会を逃さないでください。

ここで、神がヨシュアに約束されたことを、背景を踏まえて理解する必要があります。その背景とは、「しもべモーセが死んで後」(1節)です。

モーセは40年間、神の民の指導者でした。民をエジプトの奴隷生活から救い出し、約束の地の手前まで導きました。

モーセは、神から直接、教えや命令を得ました。

出エジプト33:11 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

モーセの存命中にモーセの後継者を立てるのは非常に難しかったです。民はヨシュアの言うことを聞かず、モーセに従おうとするでしょう。

しかし、神の約束は人に限定されてはいません。神はご自身の約束を成就し、ご自身のお働きを継続させるために、新しく人を立てることがおできになります。

2. ヨシュアに対する神の励まし(5、9、16-17節)

約束の地に入る前に、ヨシュアは3つの大きな励ましを得ました。

ふたつは神ご自身から、そしてもうひとつは神の民からの励ましでした。

では、その内容を詳しく見ていきましょう。

- a) 5節—神は、ヨシュアを倒すことのできる者は一生いないと約束してくださいました。これは、作戦を執行しようとする軍の指揮官にとって、すばらしい約束です。ヨシュアは、成功を確信しました。神は、ヨシュアから離れたら、見捨てたりしないと約束してくださいました。

それはヨシュアにとってはすばらしいけれど、今の私には約束などあるのだろうかと思っている人もおられるでしょうか。

そんなあなたに良い知らせがあります。この約束は、ヘブル13:5-6で引用されています。

13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」 13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れられません。人間が、私に対して何ができません。」

この個所で、ヨシュア1:5の約束はある教会の信徒たちに向けられました。そして、今ここにいる OIC の私たちにもこの約束をあてはめることができます。イエス・キリストを信じる信徒なら、神が私たちを離れたり捨てたりなさらないと確信することができます。

- b) 9節—ふたつめの励ましは、神のご臨在がどこに行ってもともにあるということです。

モーセが神の選びの民を救うよう召されたとき、神のご臨在がともに行ってくださいるかどうかを心配しました。私たちの人生に神のご臨在があると知るほど励みになることはありません。詩篇16:11は、「あなたの御前には喜びが満ち、」と語ります。神のご臨在を知る以上の喜びはありません。

- c) 16-17節—この個所では、神の民が約束をします。その約束とは、ヨシュアの言うことは何でも行う、ヨシュアが命じる場所ならどこでも行くという内容でした。

これは神の民から新しい指導者に贈るすばらしい約束の言葉です。しかし彼らはその約束を守るでしょうか。それは今後の学びでわかっていきます。

新しい教会に牧師が迎え入れられる際、教会員たちは誓約の言葉を言います。その内容はたいへい、牧師のためにしっかり祈り、支えるといったものです。しかしその教会員の中から、牧師を批判したり、働きを中傷したりする人がほどなく出てきます。これはたいへん残念なことですが、神の召された指導者を支える人を神は必ず尊重してくださいます。

神の民が誠実に神に仕え、神の召された指導者を忠実に支えるとき、クリスチャンの指導者は大いに励まされます。

3. ヨシュアに対する神の命令 (7-8節)

ヨシュアに対する大きな命令は、日夜神のみことばに思いを巡らし、従うことでした。

ここでまず強調しておきたいのは、神のみことばに思いを巡らすことは、霊的な指導者だけの務めではありません。これはすべての信徒のすべきことです。詩篇1:2は、神のみことばを昼も夜も口ずさむようにと教えます。

ヨシュアには、モーセ五書しかありませんでしたが、私たちには聖書全巻が与えられています。このすべてに思いを巡らしましょう。

コリン・ペッカム師はヨシュア記の注解書で、神のみことばに思いを巡らすことについて次のように語りました。

「聖書的黙想とは、神によって定められた神に近づく方法である。神のみことばに思いを巡らすと、神の聖霊がみことばを解き明かし、内住の麗しいお方によって強められる。」

ここで、聖書的黙想とは何か、それをどのようにして行うか、という疑問が出てきます。

聖書的黙想とは、聖書の特定の箇所について集中して考え、そこにある真理を自らの生活に当てはめる方法を見出すことです。黙想するとき、みことばの真理と意味を解き明かしてくださる聖霊に頼りつつ、聖書の箇所について深くじっくり考えます。

ある人は黙想についてこう言いました。「文字のことばを私たちの内なるいのちに生けることばとして働かせる聖霊の働きに心を開き、みことばを熟考する習慣である。」

黙想の目的は、私たちが癒し、きよめ、思いを変えることです。

聖書は、黙想がキリストに似た者となる秘訣、祈りが応えられる秘訣、そして成功する生き方の秘訣だと語ります。

(箴言4:23、ローマ12:2、コリント第一3:18、ヨハネ15:7)

黙想は、牛の消化器官のようです。

牛は、一日中草を食べ、大きな胃にそれを蓄積します。夕方になると、牛は横になり、第一の胃から戻った草を再びそしゃくします。これを飲み込み、次の胃に送られて消化吸収されます。いわゆる反すうです。

白黒の牛は緑の草を食べて、白い牛乳を作ります。

草は消化器官で吸収され、牛のいのちとなり、牛乳という実を結びます。人間が牛乳を飲むと、牛から得たものによって力を得ます。

成長しつつあるクリスチャンは皆、牛のようであるべきです。神のみことばに思いを巡らし、そこから力を得、他の人々に役立つものを与えるのです。

エレミヤ 15:16 私はあなたのみことばを見つけ出し、それを食べました。あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、【主】よ。私にはあなたの名がつけられているからです。

イエスはみことばに親しんでおられ、どのような状況でもご自身を守る手段としてみことばを用いられました。

ヨハネ 6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。

今日の個所に、神のみことばの黙想をどのようにすればよいのかが示されていますが、土曜日の日帰りリトリートでこれについてはお話する予定ですので、ここでは重複してお話するのは控えておきます。

ヨシュアにとっておもにすべきことは、神のみことばを思いめぐらし、それに従うことでした。この命令に従うことで、ヨシュアは成功を得ます。同じく私たちもそうすることで信仰生活において成功します。

4. ヨシュアは神の民を一致させる。(12-18節)

12-18節を一読すると、あまり興味をそそられない内容のように思えます。しかし、民数記32章の背景を踏まえて読むと、その意味を新たに味わうことができるでしょう。

では、旧約聖書の民数記32：1-23を読みましょう。

32:1 ルベン族とガド族は、非常に多くの家畜を持っていた。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、その場所はほんとうに家畜に適した場所であったので、32:2 ガド族とルベン族は、モーセと祭司エルアザルおよび会衆の上に立つ者たちのところに来て、次のように言った。32:3 「アタロテ、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオン。32:4 これら【主】がイスラエルの会衆のために打ち滅ぼされた地は、家畜に適した地です。そして、あなたのしもべどもは家畜を持っているのです。」32:5 また彼らは言った。「もし、私たちの願いがかないますなら、どうかこの地をあなたのしもべどもに所有地として与えてください。私たちにヨルダンを渡らせないでください。」32:6 モーセはガド族とルベン族に答えた。「あなたがたの兄弟たちは戦いに行くのに、あなたがたは、ここにとどまろうとするのか。32:7 どうしてあなたがたは、イスラエル人の意気をくじいて、【主】が彼らに与えた地へ渡らせないようにするのか。32:8 私がカデシュ・バルネアからその地を調べるためにあなたがたの父たちを遣わしたときにも、彼らはこのようにふるまった。32:9 彼らはエシュコルの谷まで上って行き、その地を見て、【主】が彼らに与えられた地に入って行かないようにイスラエル人の意気をくじいた。32:10 その日、【主】の怒りが燃え上がり、誓って言われた。32:11 『エジプトから上って来た者たちで二十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはできない。彼らはわたしに従い通さなかった。32:12 ただ、ケナズ人エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは別である。彼らは【主】に従い通したからである。』32:13 【主】の怒りはイスラエルに向かって燃え上がったのだ。それで【主】の目の前に悪を行ったその世代の者がみな死に絶えてしまうまで彼らを四十年の間、荒野にさまよわされた。32:14 そして今、あなたがた罪人の子らは、あなたがたの父たちに代わって立ち上がり、イスラエルに対する【主】の燃える怒りをさらに増し加えようとしている。32:15 あなたがたが、もしそむいて主に従わなければ、主はまたこの民をこの荒野に見捨てられる。そしてあなたがたはこの民すべてに滅びをもたらすことになる。」32:16 彼らはモーセに近づいて言った。「私たちはここに家畜のために羊の囲い場を作り、子どもたちのために町々を建てます。32:17 しかし、私たちは、イスラエル人をその場所に導き入れるまで、武装して彼らの先頭に立って急ぎます。私たちの子どもたちは、この地の住民の前で城壁のある町々に住みます。32:18 私たちは、イスラエル人がおのおのその相続地を受け継ぐまで、私たちの家に帰りません。32:19 私たちは、ヨルダンを越えた向こうでは、彼らとともに相続地を持ちはしません。私たちの相続地は、ヨルダンのこちらの側、東のほうになっているからです。」32:20 モーセは彼らに言った。「もしあなたがたがそのようにし、もし【主】の前に戦いのため武装をし、32:21 あなたがたのうちの武装した者がみな、【主】の前でヨルダンを渡り、ついに主がその敵を御前から追い払い、32:22 その地が【主】の前に征服され、その後あなたがたが帰って来るのであれば、あなたがたは【主】に対しても、イスラエルに対しても責任が解除される。そして、この

地は【主】の前であなたがたの所有地となる。32:23 しかし、もしそのようにしないなら、今や、あなたがたは【主】に対して罪を犯したのだ。あなたがたの罪の罰があることを思い知りなさい。

ヨシュアは、ルベン族、ガド族、そしてマナセの半部族に対し、モーセの存命中にモーセと交わした約束を改めて念押しします。彼らがモーセに希望を伝えた当初、それは神の民に不和をもたらす内容のように捉えられました。モーセは怒り、ヨシュアとカレブの言うことを民が聞かなかったときに起こった出来事を話して警告しました。それで、彼らは、妻子たちをヨルダン川の手前に残し、男たちは他の者たちと川を渡って相続地を所有すべく戦うと約束しました。

彼らは、相続地を受け継ぐまでは戻らないと主の御前に約束しました。

もし心変わりするならば、神の民全体に厳しい罰がくだります。彼らは約束を守り、神の民はひとつとなりました。

ヨシュア記は一貫して、「すべてのイスラエル人」に対する関心があります。このことから、神はご自身の選びの民の一致を重視されることがわかります。

(3-4章、7-8章、10 : 29、22 : 12、23 : 2、24 : 1)

先週、ヨハネ17章から、本物の神の民がイエスとひとつとなることと、信徒同士で一致することが非常に大切であることを学びました。

神の民の一致について、ふたつ知っておくべきことがあります。

まず、一致は画一ではありません。私たちは皆同じではありません。それぞれ違った背景があり、信仰の背景や教派によって、二義的な神学的信念に相違があります。これら二義的な事柄や教会の運営方法について、全員一致で同意するのは不可能です。

次に、一致は福音における一致のみしかありません。主イエス・キリストの福音が神の民をひとつにします。他の物事を土台に一致することはできません。多くの自称クリスチャングループが、異なる福音を語りながら、自らをクリスチャンの一派と言います。しかし、異なる福音を持つ人々とはひとつとなることはできません。

まとめ

1. 神はヨシュアに相続地を約束なさいました。これは、神の選びの民の父であるアブラハムに神が約束された土地です。
2. 神は、誰もヨシュアを倒せる者はなく、相続地の所有が成功すると約束し、ヨシュアを励まされました。また、どこに行くにも神のご臨在がともにあるとも約束なさいました。ヨシュアは、ルベン人とガド人、およびマナセの半部族の従順によっても励まされました。
3. 神からヨシュアへの命令は、昼も夜も神のみことばを思い巡らし、従うことでした。
4. 神の民の一致は大切ですが、それは福音にある一致のみを指します。神学や善行など他の事柄に基づく一致ではありません。